

1 学校運営の目標・方針

○学ぶ楽しさと学び続ける意欲・能力を育成する。
○基礎・基本を確実に定着させ、「生きる力」を育む。
○生命を尊重する心、他を思いやる心など、人間として調和のとれた人格形成をめざす。

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

○生徒と保護者と教員の評価の違いから、問題点・改善点がよくわかる。
○同じ質問項目で、このような三者の評価の違いがわかると、第3者の私たちが見てもわかりやすい。これからもこの方法を継続してください。
○目標が目標だけに終わらず、更なる取組を望みます。
○常に生徒に向き合っている姿勢がうかがえ、全体的に評価できる。
○多くの項目で、生徒・保護者からB以上の評価を得られているということはすばらしいと感じました。あとは、なぜAでないのかを生徒と教職員がともに考えることができれば、もっといい結果が生まれると思います。

2 本年度の重点目標

○教職員が研修に励み資質向上に努める。校訓「自立」「協同」「創造」の具現化を図り、活力ある校風作りをめざす。
○命と人権を大切に、共に生きる心を育てる教育の推進を図り、生徒が自らの在り方や生き方を考え、積極的に行動できるようにする。
○「産業社会と人間」や進路ガイダンスを通じて、生徒個々に応じた指導を徹底し、個性の伸張と主体的な進路決定をめざす。
○保護者や地域社会との一層の連携を図り、開かれた学校をつくる。

5 総合的な学校関係者評価

○学力向上に力を入れてほしい。
○総合学科の特長を更に伸ばし、中学校や社会に向けて広く発信してほしい。
○地域に住む住民として、今津高校の生徒たちは礼儀正しく、素朴で、とても好感が持てます。地域と学校が連携してできる「町おこし」や「新規性」「独創性」のあるイベント企画等ができればより身近に感じてもらえると思います。個人的には、21世紀枠で甲子園に出場できれば盛り上がりそうです。
○総合学科だから「できる」「できない」ではなく、総合学科高校だけ「できる」西宮今津高校に期待したいです。
○質問項目1～22について、概ね例年通りです。生徒評価で平成25年度より平成26年度が下がっている項目が「2、5、14、16」と4つあります。その原因を探ることが大切だと思います。
○生徒が自らの人生の目標設定ができる取組を今後とも願いたい。そのことにより、学習の取組姿勢が変わってくると思う。
○これまでの取組の継続・発展を願います。
○「総合学習」や「課題研究」といった、今、日本全国の高校教員が頭を悩ませている教育システムに従来から積極的に取り組まれ、次第に今津高校独自のスタイルを作り上げてこられた努力に敬意を表します。

【生徒・保護者・教員】
A: 5.0～4.2
B: 4.1～3.3
C: 3.2～2.4
D: 2.3～0

【総合評価】
A: 5.0～4.0
B: 3.9～3.5
C: 3.4～3.0
D: 2.9～0

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

観点	No.	質問項目	生徒評価 672名		保護者評価 363名		教員評価 53名		総合評価	自己評価	自己評価を踏まえた改善策	「改善策」の評価(学校関係者評価)
学校生活	1	わたしは本校の校訓を知っている。	4.0	B	3.7	B			B	○概ね生徒や保護者へ周知され、理解されている。	○始業式・終業式・全校集会・HR・年次通信等で校訓に触れる機会を増やす。また、再来年度の40周年に向け、生徒が学校への愛着や誇りを持てるようにする。	○各種行事などを通して、今後とも保護者や地域との連携を深め、生徒の活動を見てもらい、共感を広めていくことが大切である。 ○社会においても、会社の「経営方針」が社員に浸透している企業は伸びている。継続して発信してほしい。 ○生徒・保護者だけでなく、40周年に向けて多くの地域の方々に祝っていただけるよう、行事・生徒の活動に地域との連携を深めていきたいと思います。 ○校訓にふれる機会を増やすことは最もよい改善策だと思う。教師からだけでなく、生徒会など、仲間からの呼びかけがあると、生徒たちにより強い愛校心が芽生えたと考えられる。 ○今後とも機会があるごとに周知をしていただきたい。 ○校訓については、意義と意味、実生活との関わりを教員と生徒がともに考えることが大切である。そのためには、教員各自がよく考えたうえで、議論を通して、共通理解を図ることが必要である。 ○なぜ「自立・協同・創造」が大切なのかを考える時間が大切。
	2	わたしは学校に来るのが楽しい。	3.7	B	4.2	A			A	○保護者評価より生徒評価が低い。 ○生徒の実態に合った学習内容の設定や学習活動が行われており、生徒は概ね充実した学校生活を送れている。 ○卒業後の進路などの悩みがある中、その悩みの克服のため、生徒は努力している。	○教育活動を通じて生徒自身が成長を実感できるように工夫する。 ○総合三科目をさらに充実させ、目標を持って学校生活ができるように工夫する。	○生徒は学校が楽しいと実感できているように思う。 ○「学校に来るのが楽しい」と感じるのは、基本中の基本である。ぜひ、その1点にフォーカスし、その為には「何をすべきか」という視点で改善策を考えてほしい。 ○学校生活は楽しいだけでなく、学力向上が大切です。勉強する楽しさを教えてほしいと思います。 ○目標を持つことは大切なことなので、具体的にどのような「工夫」が行われたのか興味がある。 ○自ら参画をし、考える機会を多く創出してください。
	3	わたしは学校での出来事を家庭でよく話をする。	3.6	B	3.9	B			B	○比較的話をしているようである。 ○生徒が楽しく学校生活を送っており、家庭においても、学校生活が保護者との話題になっている。 ○進路決定などの際には、親子の会話が必要であるため、その機会にめぐまれたのではないかと。	○保護者とともに考える機会を設ける。 ○年次通信を充実させ、家庭で学校生活が話題なるようにする。	○学校の情報発信回数を増やすように取組を進めていくことが大切である。 ○結果は評価できる。学校での出来事を家庭でよく話をするのは、学校と家庭の関係が良好であるからといえる。更なるポイント上昇を期待する。 ○親子の会話は、親も子どもを今津高校に行かせて良かったと思っていただけてこそのことだと思います。保護者会の充実も大切に取り組んでください。 ○毎日、学校での出来事を話さなくても、本当に聞いてほしいとき、また、親の助言がほしいときに話しやすいような親子関係を日頃から築いていく必要があると思う。 ○学校情報の家庭への提供を今後とも願います。 ○高校生ぐらいの年齢になると、親との距離の取り方を探ようになります。中学生の頃のように、家庭で学校の話題を子ども自身が持ち出すことは少なくなるかもしれません。
	4	わたしは学年通信、PTA広報誌など学校からの配布物を保護者に渡している。	3.5	B	3.7	B	3.9	B	B	○比較的保护者に渡っているようである。 ○保護者宛の配布物もよく手元に渡っており、保護者会等の出席率も比較的高めである。 ○提出物も期限通り、ほぼ提出されているので必要な連絡物は保護者にわたっている。	○学校ホームページに年次通信や配布物一覧等を掲載する。	○ホームページの更なる活用を期待する。 ○すばらしいと思えます。生徒・保護者・教員の3者の評価の乖離がないので、よく浸透しているといえる。 ○ホームページの更なる充実と活用をお願いします。また、配付物(手紙)が多すぎると見てもらえないと思えます。手紙や通信の内容、書き方等の工夫も必要かなと思います。 ○ホームページの充実、学校の様子を知るのに役立つので、とてもよい改善策だと思う。 ○全教員が様々な場面でホームページをPRしたり、生徒会にホームページを作成させるなど、ホームページ充実に向けた取組を進める必要がある。 ○配布物が保護者に届かないので、ホームページの充実、行事案内等メール配信の更なる活用方を検討する必要がある。

観点	No.	質問項目	生徒評価 672名		保護者評価 363名		教員評価 53名		総合評価	自己評価	自己評価を踏まえた改善策	「改善策」の評価(学校関係者評価)
基礎学力	5	学校はわかりやすい授業を行っており、基礎学力が定着してきた。	3.2	C	3.3	C	4.1	B	B	○習熟度別授業などを取り入れて、工夫して行っている。 ○基礎学力が定着していない分野に関しては、さらに習熟度で丁寧に指導する必要がある。	○基礎学力が定着していない分野に関しては、さらに習熟度で丁寧に指導する必要がある。 ○生徒・保護者と教員の評価の差を考慮し、対応策を考えてほしい。 ○基礎学力の低下が、今問題になっているようです。生徒が勉強する意欲がもてる授業内容に工夫をお願いします。 ○生徒の習熟度に合わせた丁寧な指導は評価できる。 ○教員評価と生徒評価の差を分析してください。 ○生徒・保護者両方の評価がCなのが気になります。なぜCなのか、その理由を分析されてはどうでしょうか。 ○教員の授業の巧拙で生徒の学力に差が出るのは当然ということを確認する必要があります。 ○中学校の保護者は、各高校がどのように学力向上に取り組んでいるかということに関心が高い。	○教員と生徒の評価の差が課題である。演習プリントなどで基礎学力の達成感をもたせることが重要である。 ○生徒・保護者と教員の評価の差を考慮し、対応策を考えてほしい。 ○基礎学力の低下が、今問題になっているようです。生徒が勉強する意欲がもてる授業内容に工夫をお願いします。 ○生徒の習熟度に合わせた丁寧な指導は評価できる。 ○教員評価と生徒評価の差を分析してください。 ○生徒・保護者両方の評価がCなのが気になります。なぜCなのか、その理由を分析されてはどうでしょうか。 ○教員の授業の巧拙で生徒の学力に差が出るのは当然ということを確認する必要があります。 ○中学校の保護者は、各高校がどのように学力向上に取り組んでいるかということに関心が高い。
	6	わたしは家庭学習の時間を2時間以上確保できている。	2.8	C	2.9	C	3.9	B	C	○生徒の評価に関しては、(6)の質問の評価が低い割に、(7)の評価が高い。自分に甘いのではないだろうか。 ○学習意欲が低く、自学自習の習慣ができていない。 ○部活動と学習、または総合三科目と学習がうまく歯車がかみ合っていない。教師がバランスのとれた考え方ができていないことが背景として考えられる。	○家庭学習の課題などを増やして、しっかりと成績に反映させていかなくてはならないと思う。 ○家庭学習の時間を持たせるよう教育活動全体を通じて意欲を持たせる。 ○総合三科を更に充実させ、進路に向けて自分がすべきことを積極的に取り組むように動機づける。 ○自ら課題設定ができないのであれば、家庭学習時間確保のための課題を課す。	○学習意欲を喚起させるよう学習課題を工夫することが重要である。 ○生徒・保護者と教員の評価の差、意識の差を問題に感じる。実社会でも、仕事の効率化ができていない人ほど「時間がない」「こんなたぐさんの仕事はできない」と言います。人間には平等に時間が与えられています。やることの優先順位をつける習慣が必要ではないか。 ○家庭学習をする生徒や生徒の学習時間が少なくなってきたのは、高校生だけでなく、小・中学生も同じだと思います。先生方も大変だと思いますが、継続して先生と生徒が一緒になって目標に向かって学習する意味を伝えてほしいと思います。 ○家庭学習は質が大切なので、単純に「2時間以上」という設定では、個人個人の評価ははかれない。内容の濃い自主学習ができるように個別に指導していけば、より成果がでると思う。 ○生徒一人ひとりの学習への自覚の喚起をしてください。 ○学習の方法が意外とわかっていない生徒がいるのではないかと思います。たとえば、英語の成績を向上させるにはどのような学習法が効果的かを指導するといいかもかもしれません。(私自身も高校で教科の内容は教わっても学習法まで指導してもらった経験がありません。)
	7	学習意欲は高く持っている。	3.3	B	3.4	B				○補習を設定できる時間帯が限られているため、生徒も参加しにくいかもしれない。 ○教員が思っているほど生徒は講習などを活用できていない。 ○部活動重視になり、平日の学習と部活動のバランスが悪い。 ○生徒の評価に関しては、(7)意欲との差が見られる。講習設定はしているが希望者が少ないのが現状。	○夏休みなどを利用して、積極的な講習参加を呼び掛けていく。 ○講習案内の仕方を工夫し、より多くの生徒が活用できるようにする。 ○成績不振者は、ノ一部活日を設定し、優先的に週一回は補習に参加させる。 ○講習内容、時間設定など再検討が必要。	○長期休業中の補習を有効に利用させることが大切である。 ○教員の自己満足になっていないだろうか。営業にたとえると、お客様のニーズを考えずに自分の価値観で「お客様はこの商品が欲しいはずだ」と思いこむケースと似ているように思う。この場合では、生徒に「どんな講習・補習をしてほしいか」とアンケートをとることも1つの方策ではないか。 ○講習、補習を受ける意味、時間、そして担当してくださる先生の大変さをしっかり伝えてほしいと思います。 ○部活動と学習の両立は時間的にも体力的にもなかなか厳しいものがあると思うので、ノ一部活デーの設定についてはよい考えだと思う。ただ、その際に、部活の顧問と学習指導の教師が同じ対応をしないと生徒はとまどうので、意思の疎通が重要である。 ○生徒一人ひとりの学習への自覚の喚起をしてください。 ○難しい項目が理解できるようになった、解けない問題が解けるようになったという達成感がわかるような工夫が必要でしょう。そのためには、生徒自身で、自分でできないところを発見し、自己申告をして、指導を受けるようなシステムが有効でしょう。 ○勉強に対する評価は「学習時間」だけではないはずだ。塾優先の「学習の質」も問題である。学校は生徒に質の高い授業を提供することが重要である。
	8	講習・補習・個別指導などを積極的に受けている。	2.9	C	3.3	C	4.3	A	C	○それぞれの部活で結果が出てきている反面、家庭学習がおろそかになってきている。 ○家庭学習の不足。 ○家庭における時間の活用が確立していないことや学習意欲の停滞が部活動との両立ができていないと感じる要因であると考える。	○家庭学習の時間が増えるように促す。 ○家庭学習の習慣化。 ○部活動で成績不振者は試験前には積極的に学習する環境を作る。 ○部活動でも、調査前など、学習に対する取組を指導する必要あり。	○長期休業中の補習を有効に利用させることが大切である。 ○教員の自己満足になっていないだろうか。営業にたとえると、お客様のニーズを考えずに自分の価値観で「お客様はこの商品が欲しいはずだ」と思いこむケースと似ているように思う。この場合では、生徒に「どんな講習・補習をしてほしいか」とアンケートをとることも1つの方策ではないか。 ○講習、補習を受ける意味、時間、そして担当してくださる先生の大変さをしっかり伝えてほしいと思います。 ○部活動と学習の両立は時間的にも体力的にもなかなか厳しいものがあると思うので、ノ一部活デーの設定についてはよい考えだと思う。ただ、その際に、部活の顧問と学習指導の教師が同じ対応をしないと生徒はとまどうので、意思の疎通が重要である。 ○生徒一人ひとりの学習への自覚の喚起をしてください。 ○難しい項目が理解できるようになった、解けない問題が解けるようになったという達成感がわかるような工夫が必要でしょう。そのためには、生徒自身で、自分でできないところを発見し、自己申告をして、指導を受けるようなシステムが有効でしょう。 ○勉強に対する評価は「学習時間」だけではないはずだ。塾優先の「学習の質」も問題である。学校は生徒に質の高い授業を提供することが重要である。
	9	部活動と家庭学習の両立ができています。	3.2	C	3.4	B	3.5	B	C	○科目選択の幅が多く、三者面談などを通じて、丁寧な指導ができていと思う。	○講師時間の関係で、すべての科目を開講するのがなかなか難しい。見直しなどをして、より良い選択の幅が増えるようにしたい。	○家庭学習の習慣を定着させることが重要である。 ○「学習時間を予め『天引き』する考え方」…毎日2時間家庭学習の時間を確保するのであれば、残りのやるべきことに優先順位をつける習慣を身につけさせることが大切である。やること、やらなくてもよいことを毎日の生活の中で習慣化させることが大切である。 ○部活動での家庭学習の両立を考えると必要があると思います。土日練習の午前中みんな学習して、午後部活など、家庭学習をする環境を作ることもいかがでしょうか。 ○生徒の目標設定と学習意欲の喚起をお願いします。
	10	わたしは多様な選択科目の中から自分の進路・適性に合ったものが選択できた。	3.8	B	4.0	B	4.0	B	B	○クラスや年次集会等で提供された情報が、生徒や保護者に十分伝わっていない。	○生徒や保護者が求めているタイムリーな情報を、その都度提供する。	○満足できる結果である。 ○3者の評価に乖離が少なく、評価できる。 ○生徒は科目選択の段階で自分の将来を考えるといます。生徒の目標の手助けになる指導をお願いします。 ○評価できる。
生徒の自主性	11	進路に関する適切な情報が提供されている。	3.6	B	3.5	B	3.9	B	B	○教科担当や担任の認識と、生徒の理解とに大きな差があるところに問題がある。 ○模試結果の振り返りの不足及び生徒の意識が低い。 ○背景として、自分に合った学習法が身に付いておらず、基礎学力が不足していることがあげられる。そのため、模試の結果をしっかりと評価できておらず、今後の学習の指針となっていない。 ○偏差値などのデータは提示されるが、それが学習意欲の向上に直結しないのが現実。	○成績や結果だけではなく、事前に生徒個々の目標を設定するなど、継続的な取組が必要である。 ○模試の振り返りを行う時間を設ける。 ○模試の前に講習を行い、希望者は積極的に参加できる体制を作る。 ○事後学習は個人に任せている部分があるが、授業時間内に、模試の一部の解答・解説を実施する必要あり。	○「改善策」とおり、求められているタイムリーな情報を提供することが重要である。 ○先生方の努力に感謝します。生徒も保護者も不安、心配なので、しっかり耳を傾けて相談にのっていただきたいと思います。 ○進路に関する情報は、教師全員が共通理解をしてほしい。 ○大学の学部選択は、高校生にとって大変難しいものです。機会があれば、学部の学びの内容や魅力についてわかりやすく話す場を設けることができればいいと思います。
	12	模擬試験等を継続的に受け、事後の学習に生かしている。	3.2	C	3.3	C	4.0	B	C	○成績や結果だけではなく、事前に生徒個々の目標を設定するなど、継続的な取組が必要である。 ○模試の振り返りを行う時間を設ける。 ○模試の前に講習を行い、希望者は積極的に参加できる体制を作る。 ○事後学習は個人に任せている部分があるが、授業時間内に、模試の一部の解答・解説を実施する必要あり。	○成績や結果だけではなく、事前に生徒個々の目標を設定するなど、継続的な取組が必要である。 ○模試の振り返りを行う時間を設ける。 ○模試の前に講習を行い、希望者は積極的に参加できる体制を作る。 ○事後学習は個人に任せている部分があるが、授業時間内に、模試の一部の解答・解説を実施する必要あり。	○模試の振り返りを行う必要がある。 ○「模試で点数を取れなかったところ、間違ったところを『あーあ、よかった』と考える」…営業・商売においても、取引先から断られたり、叱責を受けたらすることの方が多いが、本当はその方が財産である。「早くしろ」と言われれば早くすればよいし、「汚い」と言われればきれいにするればよい。全てお客様が教えてくれる。模試で間違ったり、点数が取れなかったら、むしろ「これでよかった」と感じ、そこを重点的に改善していく。そんな考え方、意識付けが大切である。 ○生徒に模試を受ける意味をしっかりと理解させ、取り組む必要があります。また、模試対策も事前に実施してください。模試を受けるのにお金が発生していることを生徒はわかっているのでしょうか。 ○生徒・保護者ともに低い評価なのが気になる。模試の振り返りを徹底し、1つずつ苦手を克服していくことが必要である。 ○生徒個々の目標設定とその実現のプロセスが自覚できるようにしてください。 ○模試の結果をいかすには、多くの生徒が間違いやすい代表的な設問をいくつか取り上げて、集中的に解説するといいいのではないのでしょうか。

観点	No.	質問項目	生徒評価 672名		保護者評価 363名		教員評価 53名		総合評価	自己評価	自己評価を踏まえた改善策	「改善策」の評価(学校関係者評価)
生徒の自主性	13	進路校外学習などを通して、職業観・勤労観が身に付いた。	3.6	B	3.6	B	4.2	A	B	○生徒、保護者ともに、校外学習の意義について意識されてきていると考えられる。	○生徒、保護者と教員の間評価の差が大きい。この意識のずれを是正するために生徒のモチベーションを高める工夫が必要である。選択科目と関わりが深いことをもって理解させる必要がある。	○「改善策」を進めていくことを期待する。 ○「トライやる・ウィーク」の上級編・高校生版を検討できないか。 ○保護者や地域の方々にも協力をお願いしたいかがですか。 ○評価できる。
	14	「産業社会と人間」「総合学習」「課題研究」など生き方・あり方について考える機会が多い。	3.7	B	3.7	B	4.0	B	B	○生徒、保護者ともに、総合学科の教育課程が理解されてきていると考えられる。	○新しいことを追うだけではなく、現在取り組んでいることを有機的に定着させていく。	○満足できる結果である。 ○結果を評価する。現在の取組の更なる継続、定着を期待する。 ○やればよいのではなく、内容の充実と生徒たちの関心を大切にしたい取組をしてください。 ○評価できる。 ○各教科の学びと「総合学習」「課題研究」とが有機的につながっていることが理解できるような工夫をさらに続けてください。
	15	「総合学習」や「課題研究」を通して、課題設定や課題解決の能力が伸長した。	3.6	B	3.5	B	4.1	B	B	○教育活動の有効性が実感できる場面がまだまだ全体の生徒に行き届いていない面がある。	○生徒の活動を現在以上に学年を超えたものに発展させ、継続性を持たせていく。さらに教員が各教科において学びの内容を課題解決的に展開できるかが重要である。	○「改善策」を進めていくことを期待する。 ○年次の枠を越えた活動にしていくことには大賛成。 ○高校を卒業し、大学、社会に出れば年齢に関係なく多種多様な方々がたくさんいらっしゃいます。年次を越えて卒業生や地域の方々とも関わってもらえたらと思います。 ○評価できる。
	16	生徒会活動やホームルーム活動では主体的に活動している。	3.2	C	3.5	B	3.9	B	B	○文化祭や体育大会に積極的に参加するようになってきたので、評価があがってきている。	○一部の生徒だけでなく、全員で取り組めるものを模索していく。	○「改善策」を進めていくことを期待する。 ○文化祭や体育大会に積極的に参加するようになってきたのは、素晴らしいことである。実社会においても、このような行動が一番求められている。 ○各行事での準備委員会等、主体性を持てる・出せるよう、生徒たちに計画させるなど考えてはいいかがですか。(先生方で計画した方が手間はかからないと思いますが) ○行事が盛り上がる学校は活気がある証拠なので、それぞれの生徒が活躍できる場面があるとよい。 ○学校生活を楽しくするためにも、生徒の自主的な参画を促す努力を今後ともお願いします。 ○時間をかけて、生徒が授業・行事に参加し、当事者として行動できるムードを学校全体で作り上げてください。 ○実社会では、失敗から学ぶことも多く、行動力が重要である。行事に積極的に参加できることは評価できる。
	17	わたしは、文化祭や体育大会等の行事に積極的に取り組んでいる。	3.9	B	4.1	B			A	○文化祭や体育大会に積極的に参加するようになってきたので、評価があがってきている。	○一部の生徒だけでなく、全員で取り組めるものを模索していく。	○「改善策」を進めていくことを期待する。 ○「心と言葉と行動」がこれからの人生で最も大切な部分だと感じています。まず行動して、経験して、よい思い出を作ることが大切である。 ○生徒会、各委員会が担当するのではなく、体育大会は運動部、文化祭は文化部が企画運営に参加し、競技種目や演技の担当をして、皆で盛り上がって参加できるように考えるのも1つのやり方だと思います。 ○評価できる。
生活習慣	18	集会などを通して、学校や学年の生徒指導方針がよく説明されている。	3.6	B	3.6	B	4.0	B	B	○学期の節目ごとに生徒指導部が中心となって、年次の生徒指導担当が十分説明をした。	○学期の節目やことあるごとに機会をつくり、指導を徹底する。	○満足できる結果である。 ○結果を評価する。信念を曲げず、続けてほしい。応援しています。 ○継続して取り組んでください。 ○評価できる。
	19	挨拶・時間厳守・携帯電話の使い方などの基本的な生活習慣が身に付いている。	3.9	B	3.8	B	4.0	B	B	○学期の節目ごとに生徒指導部が中心となって、年次の生徒指導担当が十分指導をした。	○学期の節目やことあるごとに機会をつくり、指導を徹底する。	○一層「呼びかけ」をしていくことが大切である。 ○結果を評価する。まずは「挨拶」が当たり前に行えるか否かで、社会に出てからの評価が大きく変わります。 ○大切なことなので、しっかり取り組んでほしいと思います。また、注意するだけでなく、守られたことにはほめてあげてください。 ○評価できる。 ○生活習慣だけでなく、インターネットを使う上での注意あるいは、論文・レポートを作成するときのコピー＆ペーストの問題などについても学ぶチャンスがあれば、役に立つと思います。
人権	20	保健室・教育相談室など、悩み事を相談できる体制が整っている。または、親身になって相談に乗ってくれる先生がいる。	3.6	B	3.7	B	3.9	B	B	○全生徒・保護者へ向けて案内するとともに、個別に担任・部活顧問を通じて声かけを行っている。	○より一層きめ細かく年次と連携を図る。	○教員には、一層努力してほしい。 ○人間には、困ったときに相談できる人が必要だと感じます。世の中に「うつ病」の方がこんなにたくさんいらっしゃる現状を考えても明らかです。どうかこれからもよろしくお願いします。 ○相談日を設定しても、周囲が気になってなかなか足を運ばない生徒もいると思います。常に「いつでもおいで。話を聞くよ」という場所で、先生でいてください。 ○評価できる。
	21	いじめのない学校づくりが進められている。	3.8	B	3.8	B	3.9	B	B	○アンケートを年間2回実施し、いじめ対策委員、生徒指導部、年次と連携をはかり指導した。	○アンケートを年間3回実施し、より正確な情報を得ていく。	○「改善策」を進めていくことを期待する。 ○満足できる結果である。3者の評価が一致しているのも評価できます。 ○不安定な年齢の頃、「命の大切さ」「自分は一人ではない」等、ひとりひとり居場所のある学校づくりをお願いします。 ○アンケートだけでは得られない情報をどのように見つけるかが鍵だと思う。 ○評価できる。 ○生徒の評価がBというのは、成果が上がっているとみていいでしょう。
	22	色々な授業や行事を通じて、命と人権を大切にすることを教育が行われている。	3.9	B	3.7	B	3.9	B	B	○人権教育講演会・映画会・ロングホームルームのほか、「産業社会と人間」「総合的な学習」、また日々の授業においても人権の意識を高めるように努めている。	○人権学習の内容をいっそう充実させ、人権意識をさらに高めていくように努める。	○「改善策」を進めていくことを期待する。 ○「心と言葉と行動」の完全一致…ココロが変われば言葉が変わり、言葉が変われば行動が変わる。そして行動が変わればやがて人生が変わる。どうか、その基本になる「心の教育」をお願いします。 ○人権学習は、「勉強(授業)して終わり」的なところがあります。学習後の生徒の感想を問う、また、行動等を聞いてみる機会があれば、授業に結びつけて取り組んでください。 ○人権意識は、まずは大人から。 ○評価できる。 ○人権教育の成果に関する項目がBというのは評価できると思います。